

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年3月9日 NO.95 (195)



ちか さつえい
ヒノキを1cmの近さから撮影

オー君 「^{はな}花ちゃん。この^{まえ}前の^{はなし}お話は、ちよいとむずかしかったね。」

花ちゃん 「そうね。でも、いろいろなことがお^{べんきょう}勉強できて、とてもうれしかったわ。」

オー君 「さすがは^{はな}花ちゃん。えらいことをいうね。ところでさ、^{うえ}上の^{しゃしん}写真は^{なん}何だ。」

花ちゃん 「さあ・・・？^{なん}何でしょうね。」

オー君 「あ！むこうから^{はかせ}モンタ博士^きがくるよ。聞いてみようよ・・・。モンタ^{はかせ}博士！」

モンタ博士 「はい。よい子のオー^{くん}君・^{はな}花ちゃん^{げんき}元気かな。」

花ちゃん 「モンタ^{はかせ}博士、^{うえ}上の^{しゃしん}写真は^{なん}いったいなんですか。」

モンタ博士 「あ！これは、モンタ^{はかせ}博士^{しゃしん}がとった^{しゃしん}写真だよ。モンタ博士のデジカメはね、とってもいいカメラでね、^{せつしゃきつえい}接写撮影^{ちか}と^{しゃしん}いって、とても^{ちか}近くで^{しゃしん}写真をとることができるんだ。1cmまで^{ちか}近づけるんだぞ。すごいだろう。」

花ちゃん 「あの一。それって、自慢じまんしているんですか。奥おくさんにおねだりして買かってもらったといううわさですよ。」

モンタ博士「まあまあ、そういうわけだけどね……。そうそうこの写真しゃしんは何なにかというお話しはなしだったよね。よく見ると、緑色みどりいろをしているだろう。だから植物しょくぶつさ。それに白しろいすじがあるだろう。」

オー君 「植物しょくぶつということは、何かの葉はっぱということですか。」

モンタ博士「ピンポン。そのとおり。これはね、ヒノキという木きの葉はっぱなんだ。」

花ちゃん 「思い出したわ。ヒノキというのは、スギと同じように針葉樹しんようじゆで、おうちを建てたり、柱はしらに使つかったり、とても大切な木きですね。それから、漢字かんじで『桧ひのき』と書いて、木きと木きを会あわせて『火ひ』を出すので、火ひの木き（ヒノキ）というんですね。」

モンタ博士「よく覚えていたね。ヒノキの葉はっぱのうらに白しろいすじがあるだろう。よく見ると『Y』(ワイ)の字じに見えるね。これがヒノキの特とく徴ちようなんだ。」

オー君 「ふーん。葉はっぱのウラか……。ふだんあまり見みないな。」

モンタ博士「そうだろう。ところがね、葉はっぱのうらって、植物しょくぶつを観かん察さつするととてもいいポイントなんだよね。」

花ちゃん 「はい。わかりました。これからは、植物しょくぶつをただ見みるだけでなく、いろいろと葉はっぱをひっくりかえしてみたりしますね。ところで、この白しろいすじは何なん？」

モンタ博士「これは、ろうのような物もので火ひを近づちかげると、とけてなくなってしまうよ。」

オー君 「へえー。そうなんだ。おもしろそうだな。」

モンタ博士「でも、子こどもだけで火遊ひあそびはいけないから、おうちと人とやっpegらん。それから、この白しろいものは、ろうのようなものといったけど、正ただしくは、テルペン系けいという物質ぶつしつをふくんでいるんだ。そして、これは、木きが病びよう害がい虫ちゆうやバクテリアなどを防ふせぐための物もので、人間にんげんには、とても心こころ地ちよくて、森林浴しんりんよくのもとでもあるんだよ。」

オー君 「ぼく、お寿司屋すしやさんでこの葉はっぱ見みたよ。」

モンタ博士「そうだろう。ヒノキの葉はっぱから発はっする物質ぶつしつは、魚さかななどが腐くさらないようにしてくれるんだ。昔むかしから人ひとと植物しょくぶつは仲良なかよしで、いろいろと利用りようしてきたんだ。」